

## 「Nike Cup World Final - Part 2」

お詫びです…前回のコラムから日がかなり開いてしまいました。色々言い訳はあるのですが、すいません、ひとつはホントに忙しかったのと、さらに今回の Nike Cup のコラムにどうしても盛り込みたい話があったのです。当初、そのことはすぐに決まるはずだったのですが、なんだかんだで思ったように話が進まず、今の今まで伸びてしまいました。

今、二人の見送りに空港から帰ってきたところですか？さて何の話でしょう？この話は後ほど…。

話はさかのぼり、ロンドンで大会に向けたよい準備とエミレーツ・スタジアムで生のアーセナルを堪能した私たちは、翌日マンチェスターに移動しました。（どうです、このたたずまい！ロンドン市内から地下鉄ハイバリー



駅で降りて歩くこと 10 分スタジアムは突如姿を現します)

ちなみにこのときのアーセナル、ほんとに素晴らしいパス・サッカーを見せてくれたんですね。オフシーズンにアンリがバルセロナに移籍し、ベンゲル監督も契約延長でもめていたり、またこれといった大物の補強の話も聞こえてこず、オフシーズンにあまり明るい話題がなかったので、どうなのかと思っていたのですが、なんのなんの若手がのびのびプレーをしていて、観ていてほ

んと気持ちのいいサッカーを披露していました。この日は、スタメンに 3 人のティーンエイジャーが出ていて、チーム全体を見ても日本でいうサテライトチーム？というくらい若いチームだったのですが、シーズンが始まってこの日試合に出ていたメンバーとさほど変わりのない面子でここまで戦っていて、現在 10 節を終えて、プレミアリーグ首位独走ですからね！あらためてベンゲル監督の手腕に脱帽です。実は、ベンゲル監督のサッカーは昔から私の理想とするサッカーです。

監督就任当時はイングランドでは珍しい外国人監督であり期待をされておらず、ゴシップ誌などでは根も葉もないゲイ疑惑でたたかれていたこともあった同氏ですが、アーセナルがここ 10 年あまりで世界でも超がつくビッククラブに成長し、ついに昨年の興行収入でナンバーワンのクラブになったのは、間違いなくベンゲル氏の哲学と手腕のおかげです。異常なほどのサッカーホリックで普段から寝る間を惜しんでまで、あらゆる国のリーグやカテゴリーの試合のビデオを見ているそうです。

また、選手を獲得する際に、最低 50 試合はその選手のビデオを自分自身で観るとするのは有名な話です。

話がそれすぎましたね、マンチェスターに戻ります。マンチェスターに着いたその日に、私たちは早速カーリント

ンに行き練習をすることが出来ました。カーリントンとは数年間にマンチェスターU が莫大な予算をかけて作った練習施設があるところ。今回の大会はここで行われました。

他のピククラブ同様、練習施設とクラブハウスは普段選手たちが毎日のように過ごすところなので、一般には開放されておらず、メディアさえもなかなか入ることは出来ません。

厳重なセキュリティーを通過して正門を入ると、駐車場をはさんで左側が育成からユースのクラブハウス、右側にトップチームのクラブハウスと練習場あります。正面にはサッカー



コート8面くらいは取れそうなグラウンドが広がっています。トップチームの施設は、完全に外部をシャットアウトできるつくりになっているため、私たちの大会期間中もプレシーズンのトレーニングをやっていたと思うのですが、一切見ることは出来ませんでした。

ユースの専用施設として、フルコート一面もある人工芝のインドア練習場なんて始めてみました。天気が悪いイングランドではかなり重宝するのだと思います。

この素晴らしい施設で2日間練習をしたあと、いよいよ大会前夜にオープニングセレモニーがありました。実は今回の大会はこのオープニングで抽選会が行われることになっていて、豪勢なことにゲストにファーガソン監督とボビー・チャールトン氏が招かれて、彼らが抽選を行いました。

マンチェスターでは、大会期間中はすべてのチームと大会関係者は同じ宿泊施設で寝食をとりました。



ナイキがマンチェスター大学の施設内に特設会場(大会運営本部、食事会場、ゲームなどが出来きみんなが交流できる広場)をつくり、ちょっとした選手村みたいな雰囲気をつくりだしていて、色々な国の選手、関係者が交流でき、グラウンド以外でもとても楽しく過ごせました。その食事会場で2日目の夕食時に始めてすべてのチームがそろふことがあり、体

育館ほどの食事会場が大会前の熱気と緊張に包まれてお互いが意識するあまり、異様な雰囲気になったことがありました。

そんななか、バルセロナにはチームのオーラがありましたね！他にもビッククラブはたくさん参加しているのですが、彼らさえもバルセロナには一目置いているのを見て取れました。やはり今が旬だからでしょうか、それともバルセロナのブランド力なのでしょう？非常に興味深かったです。

抽選会に話は戻りますが、そんな抽選会前夜の「ご面会」があった後で、大方の下馬評は、バルセロナ、サンパウロ、それにガタイが異様によかったのことで、威圧的な雰囲気を持っていたチーム AS ローマ、エバートンとヘルタ・ベルリン、これらのチームとは絶対に同じグループには入りたくない！というのが各チーム関係者の第一印象でした。

さて、抽選は順調に進んでファーガソン氏とチャールトン氏が交互にチーム名の入ったボールをグラスの中から次々に引いていきます。まず最初に会場が沸いたのは、グループ A でいきなりエバートンとサンパウロが同じ組になったときでした。会場がどっと沸きました。

日本代表ガンバ大阪は、早々とグループ E に選抜されましたが、私たちは残り 2 順になってもまだ選ばれません。その時点で、わたしたち皆の願いはビッククラブがひとつも入っていない B 組に！でしたがしかし、順番がグループ A にもどり、ファーガソン氏を読み上げた名前が「セントラル・ユナイテッド」・・・私たちチーム一同、新喜劇なみにパイプいすからずっこけました！ひと組に 5 チームが入るグループリーグなのですが、私たちのグループ A は 1 順目にエバートン、2 順目にサンパウロ、3 順目に韓国代表 - 全南が選



ばれ、4 順目にわがチーム、5 順目にスイスチャンピオンの FC バゼルが入る、まさに「死のグループ！！」いやいや、是非ビッククラブとやりたいという願いがありました。ここまでとは・・・決勝トーナメントに進むという目標を、とにかく 1 勝！に変えようと心に誓ったのであります。

さて、書くことがありすぎて、また長くなってしまいましたので大会の様子は、またまた次回ということにしたいと思います。こんどは間があくことはない約束します！

Nike Cup 第 3 弾を交互期待！！